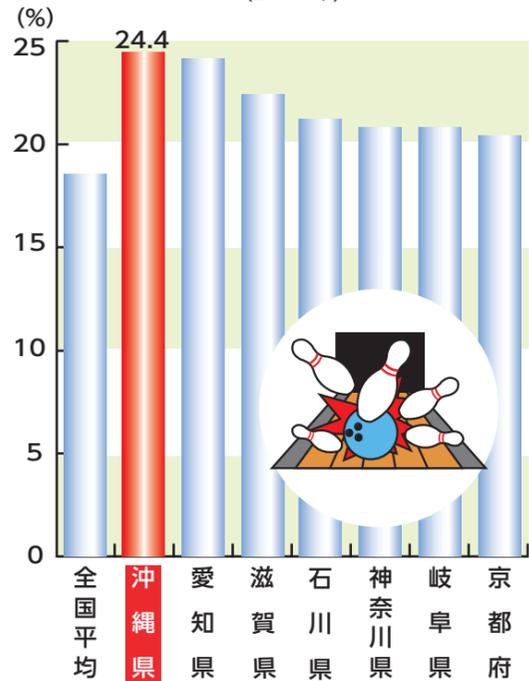


【ボウリングの年間行動者率】

(2006年)



24.4%

仲間や家族とスポーツを楽しむために、誰でも一度はボウリング場を訪れたことがあるのではないだろうか？

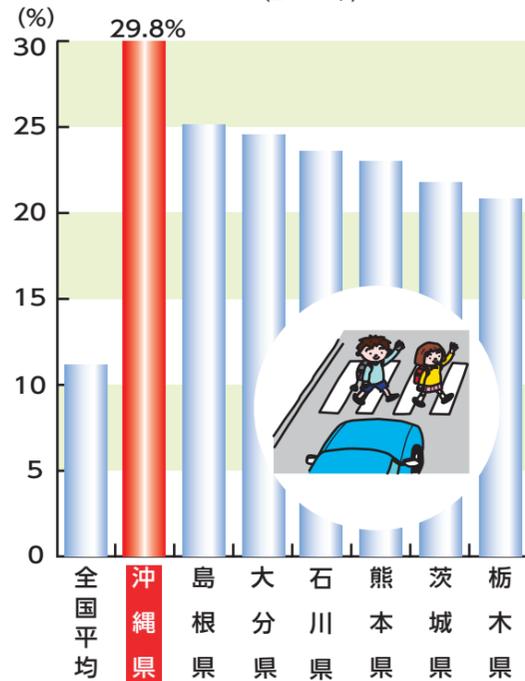
総務省「社会生活基本調査」によると、沖縄県で1年間にボウリングを行った人の割合は24.4%で全国トップとなっている。人口10万人当たりのボウリング場の数や県民1人当たりのゲーム数も全国トップとなっていて、なじみの深いスポーツとして県民の間に定着しているようだ。一方で、10年前の行動者率と比べてみると、全国平均と同様に年々減少してきていることがわかる。

ボウリングの魅力は何といっても痛快な音とともにピンが弾け飛ぶ瞬間の爽快感だろう。老若男女、年齢や体力に関係なく誰でも楽しめるスポーツだ。日頃の運動不足解消とストレス発散も兼ねて、家族や仲間とボウリング場に出かけてみてはいかがだろうか。

(海邦総研事業支援部／國吉真吾)

【横断歩道数の増加率】

(2009年)



29.8%

道路網の整備が進む沖縄県。

最近も新たな道路の開通により、那覇市内の一部の区間ではピーク時の渋滞が緩和されているらしい。道路網の整備に伴い、横断歩道の数も増え、歩行者にとっても利用しやすい環境になっているようだ。

警察庁交通局「業務資料」によると、2009年の沖縄県の横断歩道数は11,155本。9年前の2000年に比べ2,558本も増加しており、増加率は29.8%増と全国一だ。

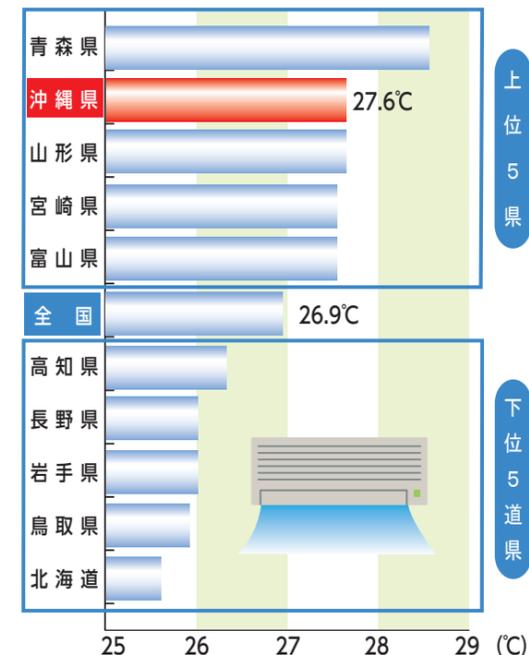
一方で道路交通事故の件数は、全国的には年々減少しているものの、沖縄県は6500件前後と横ばいで推移している。

交通事故の防止の観点からも、必要な場所に横断歩道をはじめとした交通安全施設が、整備されていくことは必須だ。同時に一人一人が交通ルールを守り、正しい交通マナーを実践することで交通事故を防止したい。

(海邦総研事業支援部／比嘉明彦)

【エアコンの設定温度】

(2011年8月)



27.6°C

沖縄県民は暑さを嫌ってエアコンに頼りがちと言われるが、設定温度に関しては必ずしもそうではないらしい。

ウェザーニューズ社が今年8月に行った「ライフスタイル調査」によると、沖縄の一般家庭におけるエアコンの設定温度は、平均で27.6°C。これは全国第2位の高さで、南国ながら全国平均より1°C近くも高い。

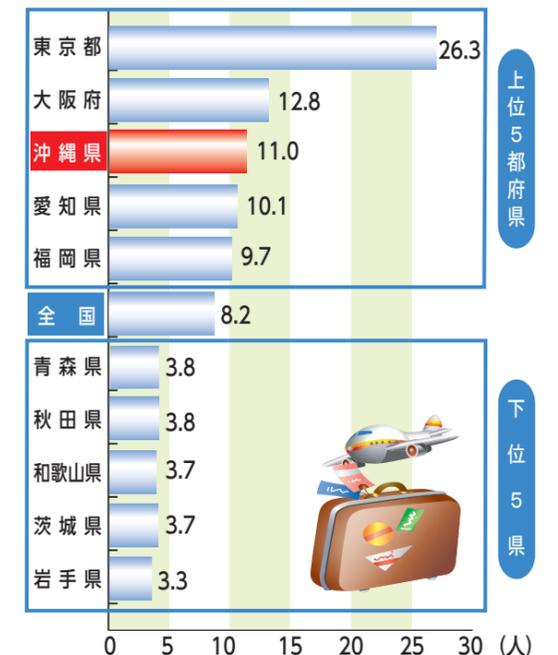
他地域の数値をみると、東京など、ヒートアイランドの問題が深刻な大都市は中ほどの順位。夏の最高気温が高いことで有名な埼玉は10位。気温の高さとエアコンの設定温度に、明確な因果関係はみられないようだ。エアコンの設定温度は、ライフスタイルや志向性に大きく影響されるのだろう。

まだクーラーを利用する日もあるかも知れないが、これからは節度ある使い方、環境に優しい生活を心がけたいものだ。

(海邦総研事業支援部／鮫島智行)

【旅行業従業者数】

(1万人あたり・2009年)



11.0人

今では国内有数の観光地のひとつとなった沖縄。2010年度に沖縄を訪れた観光客は570万人を超える。観光客を受け入れる沖縄側の旅行業従業者が担う役割も大きい。

総務省「2009年経済センサス基礎調査」によると、沖縄県内における旅行業従業者数は1,536人。人口1万人あたりで換算すると11.0人となり、東京、大阪といった大都市に次いで3番目に多い数値となる。

県内旅行業従業者の努力は、多くの観光客と沖縄を結びつけてきた。また、私たちの県内外や国外への旅行に対しても魅力的な商品を提供してくれている。便利なパッケージが数多く用意されているため、旅行に行くこと自体もとても気軽になった。

もうすぐ年末、家族や友人とで思い出作りの旅に出かけてみてはどうだろうか。

(海邦総研経営企画部／瀬川孫秀)